生物多様性 102-12,102-15,103-1

花王サステナビリティ データブック 2021

2020年の活動報告

花王の事業は、製品のライフサイクル全般にわたって、地球上のさまざまな生態系、生物の多様性がもたらす豊かな恵みによって支えられています。

世界共通の喫緊の課題のひとつである生物多様性の劣化を防ぐために、花王は、持続可能な原材料調達や、限られた原材料を有効に活用するための新しい技術開発等を精力的に 推進しています。また、事業活動による生物多様性への影響を低減するとともに、事業拠点のある地域の生物多様性の向上につながる社会活動も推進しています。 さらには、海洋プラスチック問題をはじめ、すでに汚染されてしまった生態環境の回復に向けての貢献や、生物多様性保全に寄与する製品の提供を通して、生活者やサプライヤ

ESGキーワード

愛知目標の達成

ーとのエンゲージメントにも取り組んでいきます。

生物多様性の恵みが持続する社会形成

生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用

生物多様性の主流化

社会的課題と花王が提供する価値

認識している社会的課題

生物多様性戦略計画2011-2020および愛知目標の達成 状況について分析した地球規模生物多様性概況第5版 (Global Biodiversity Outlook 5: GBO5)が、2020年9月 15日に生物多様性条約事務局により公表されました。ほ とんどの愛知目標についてかなりの進捗が見られたものの、 20の個別目標のうち、完全に達成できたものはないことが 示されました。

たとえば、2010~2015年の間で3,200万 ha の森林が減少、100万種の動植物が絶滅の危機に瀕しており、これは1,000~1万種/年のスピードで絶滅が進むことを表しています。

現在の経済活動は貴重な自然資産の消費の上に成り立っているという一面があります。また、人間による自然破壊や生物多様性を損なう行為が、これまでなかった動物と人との接触をひきおこし、新たな感染症が生まれるというリスクが顕在化してきました。これら諸問題の解決が企業に

求められています。

現在、ポスト2020生物多様性枠組の策定が進められています。ここで定められた目標は必ず達成されなければならないという強い危機感を持って、生物多様性の保全に真摯に取り組む必要性を私たちは強く認識しています。

花王はパーム油をはじめとする多くの生物資源の恩恵を受けて事業を行なっており、世界の生物多様性の劣化は事業の持続性にも大きく影響します。ライフサイクルのすべてのプロセスにおいて生物多様性への配慮が必要です。特に、持続可能な原材料の調達プロセスを確立することが重要です。花王はRSPO認証パーム油の購入を機に、10年以上にわたり、アブラヤシ生産地における森林破壊とそれに伴う生物多様性の消失、現地で暮らす人々や農園労働者の人権侵害等の諸問題に向かい合ってきました。これまでに獲得した知見や人的ネットワークを最大限に活かし、花王の事業に関連するすべての自然環境やステークホルダーに対してポジティブな影響をもたらす未来をめざしていきます。

花王が提供する価値

IPBES*は、生物多様性の目標を達成するためには、"経済・社会・政治・科学技術における横断的な社会変容(transformative change)"が必要だとしています。花王はESG経営において掲げたビジョンや各方針のもとに目標を定め、社会課題解決型のイノベーション技術や製品、日々の活動を通して、生物多様性の劣化防止・回復、持続可能な未来社会の実現に向かって邁進していきます。

X IPBES

生物多様性および生態系サービスに関する政府間科学政策プラットフォーム。

花王は生物多様性保全に対し、以下の観点から貢献していきます。

生物多様性の恵みが持続する社会形成

花王は、主要原材料であるパーム油や紙・パルプに関して、 原産地の森林破壊ゼロの確認やトレーサビリティの確保等

生物多様性 102-12,102-15,103-1

に関する目標を掲げており、その達成に向けて、森林破壊リスクのマッピングやハイリスクと判断された工場の調査などの具体的な活動を推進しています。2020年に大手プランテーションまでのトレーサビリティ確認を完了し、2030年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認を完了することを目標にしています。

森林破壊や人権侵害等のない持続可能な原材料の生産、 調達体制を確立し、すべてのステークホルダーに対して生物多様性の恵みが永続的に得られる社会の形成に貢献して いきたいと考えています。

生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用

花王は、生物多様性への影響が少ない原材料の開発・活用 を推進しています。

パーム油は花王の製品の多くに使用されていますが、グローバル規模での人口増加によって今後需要がますます高まることが予測されており、森林破壊や原材料不足が懸念されます。そこで花王はパーム油の代替として、天然系でかつ非可食系の油脂源を利用する技術開発を継続しています。これまで活用が難しかった油脂原料を界面活性剤として活用できる「バイオIOS」や、高効率で油脂原料を生産可能な微細藻類の開発などを行なっています。

生物多様性の主流化

認証材の積極的な活用、他社との協働として「持続可能なパーム油のための日本ネットワーク(JaSPON)」での持続可能なパーム油の調達・消費の促進、そのほか、拠点の緑

地保全活動や社外の生物多様性保全活動への社員参画促進 など、多様な活動を推進して生物多様性の主流化に寄与し ています。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わるリスク

今後のグローバル規模での人口増加や経済の発展は、私たちが必要とする主要な原材料であるパーム油や紙・パルプの需要のさらなる増加をもたらすことが考えられます。 一方で、生物多様性や人権侵害等の諸問題に配慮した持続可能な原材料の調達には付加的なコストが発生します。しかし、その調達において持続可能性への配慮がなされなければ、将来の長きにわたっての調達ができなくなり、事業存続が困難になる可能性が考えられます。

また、森林破壊や人権侵害などの現地の深刻な問題に対処した持続可能な原材料調達が行なわれない場合、企業のレピュテーションが著しく低下し、社会からの信頼が得られず、事業存続が困難になるリスクが想定されます。

「2030年までに達成したい姿」の実現に関わる機会

花王は2011年に「生物多様性保全の基本方針」を定め、 持続可能な原材料調達や生物多様性保全に貢献する新しい 技術開発等に取り組んできました。

2014年に改訂した「原材料調達ガイドライン」では、パーム油や紙・パルプの原産地における森林破壊ゼロの確認を進めること等を目標に定め、将来にわたる持続的な原材料調達を実現するための具体的な活動を推進することにより、事業継続の可能性を高めています。

花王が新たに開発した界面活性剤「バイオIOS」は、グローバル規模での人口増加に伴い懸念される原材料不足等の諸問題を解消する、まったく新しい技術として用途の拡大が期待できます。

貢献するSDGs









生物多様性 103-2,404-2

方針

花王が2011年に策定した「生物多様性保全の基本方針」では、①事業との関わりの把握、②影響の低減、③独自の技術開発、④国際的な取り決めの遵守、⑤地域生態系に配慮した事業活動、⑥社員の意識向上、⑦社外関係者との連携の計7つの方針を掲げ、毎年レビューを行なってきました。

方針策定から10年の節目の年である2021年は、ポスト 2020年目標の国際合意がなされる予定の年でもあります。 この合意内容を踏まえて、花王として貢献できる活動の方 向性を改めて見直す予定です。



→生物多様性保全の基本方針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-basic-policy.pdf

→牛物多様性保全の行動指針

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/biodiversity-action-policy.pdf

→生物多様性保全の活動事例

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

教育と浸透

「生物多様性保全の基本方針」策定後に日本花王グループの全社員を対象に実施したeラーニングおよび新人を対象に毎年行なっている環境教育等により、生物多様性についての社員への基本的な周知はできていると考えています。

また、イントラネットに設けたESG関連トピックスを扱うコーナーにおいて、SDGsの目標14や目標15に関わるテーマとして、私たちの生活と生物多様性の関わりについて学び考え、社員が行動に移せるヒントを提供しています。

海外の社員に対しては、毎年開催しているグローバルRC ミーティング等を通じて情報共有や啓発等を都度行なっています。

ステークホルダーとの協働/エンゲージメント

持続可能な原材料調達の推進

パーム油・パーム核油、ならびに紙とパルプの調達においては、生物多様性の保全に配慮し、森林破壊ゼロを支持します。原産地まで追跡可能なパーム油・パーム核油の全量調達と、原料木材の原産地の追跡可能なパルプのみの購入を進めています。

パーム油の持続可能なサプライチェーンの構築をめざし、インドネシアの小規模パーム農園の生産性向上、持続可能なパーム油に対する認証の取得を支援するプログラム「SMILE」(SMallholder Inclusion for better Livelihood & Empowerment program)を開始しました。



- →思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all. pdf#page=79
- ⇒サステナビリティトピックス:花王 持続可能なパーム油サプライチェーンの確立に向け、小規模パーム農園との対話を 実施

www.kao.com/jp/corporate/sustainability/topics/sustainability-20191002-001/

各国・地域に応じた生態系・生物多様性の保全活動

花王は世界中に事業拠点を有しています。生物多様性保全についての基本的な方針は本社で定めていますが、生物多様性の状況や考え方は国や地域で異なるのが現状です。 生物多様性保全活動を効果的に推進するためには、それぞれの国、地域において、行政、NGO/NPO、有識者など、関係するさまざまなステークホルダーと積極的に意見交換する機会を設けることが有効であると考えており、各国・地域の担当者に推奨しています。

啓発

花王では、各拠点において生物多様性に配慮した緑地保 全活動を推進しており、社員が参加可能なイベントも用意 しています。また、外部の生物多様性保全プログラムへの 社員のボランティア参加を奨励しています。社員には、こ れらの活動への積極的な参画を通じて、生物多様性への理 解を深めてほしいと考えています。

和歌山事業場にある地球環境と花王のエコ技術の発信基地、エコラボミュージアムでは、未来を担う小学生を中心に地域密着型の啓発活動を行なっています。併設された温室では、ヤシなどが育つ南国の高温多湿な気候が再現されており、約60種の植物を見ることができます。2020年は、小学校へのリモート中継も開始しました。

体制

生物多様性の損失は花王を取り巻く重要な社会課題の一つです。Kirei Lifestyle Planに定めた19のアクションのうち、たとえば、責任ある原材料調達、脱炭素、ごみゼロ(プラスチック削減等)、大気および水質汚染防止、責任ある化学物質管理などは、いずれも生物多様性と深く関わる活動になっています。これらの活動はESG委員会やESG推進会議の下で推進されています。

また、レスポンシブル・ケア(RC)活動の一つである「環境保全」においても、生物多様性保全を活動項目の一つに定めています。生物多様性に関する方針、目標、計画を定め、活動の進捗とあわせてRC推進体制で管理しています。活動の進捗については、年1回開催のRC推進委員会、日本RCミーティング、グローバルRCミーティング(いずれも担当役員が参加。2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により中止)において、情報共有を適宜行なっています。



→ESG推進体制について詳細は

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=18

生物多様性 103-2,103-3

中長期目標と実績

2025~2030年中長期目標

花王は、生物多様性に関するものとして、主要原材料であるパーム油や紙・パルプについて、森林破壊ゼロやトレーサビリティの確保等に関する活動目標を掲げています。

2025年までに家庭用製品に使用する認証紙製品・パルプの比率100%や、2030年までに小規模パーム農園までのトレーサビリティ確認完了を掲げ、その達成に向けた活動を推進しています。また、2021年に予定されているポスト2020年目標の国際合意を踏まえ、花王の生物多様性に関わる今後の方針を定めていきます。

中長期目標の達成により期待できること

事業インパクト

持続可能な原材料の調達には少なからず付加的なコストが発生しますが、これは私たちの事業を持続可能なものにするために必要不可欠な投資であり、社会的責任であると捉えています。

また、欧米市場ならびにミレニアル世代・Z世代を中心に、エシカル消費の動きが活発化しており、生物多様性に配慮し、持続可能な原材料を使った商品が求められるようになっています。原材料調達から、商品設計、使用方法、廃棄後に至るまで、花王の提供する製品に生物多様性の視点を盛り込むことは、今後ますます拡大するエシカル消費市場での存在感を高めるものと考えています。

その結果、レピュテーションのみならず、財務・非財務の 両面からメリットが生じていると想定しています。

社会的インパクト

持続可能な原材料調達に関するさまざまなプロセスにより、原材料調達地における森林環境の維持・回復や地域社会の人権の尊重が向上します。

森林は、地球の気温や気候を安定させ、保水機能を有するため、災害の防波堤の役割を果たしています。食料や医薬品をはじめ、清潔な水や大気など、私たちの生活に欠かすことのできないさまざまな資源と恵みが森林の生態系からもたらされ、その経済価値は数千兆円ともいわれています。

企業が原材料調達から製品の使用後に至るまで、生物多様性に配慮した商品を開発・販売し、生活者がそのような商品を選ぶことにより、多くの人が生活の中で生物多様性を理解し、直接あるいは間接的に生物多様性の保全に貢献できる社会がもたらされます。生物の持つ生産力を考えた、持続可能なレベルでの資源利用ができれば、自然の恵みを利用し心豊かな生活を続けることができます。

生物多様性 103-2,103-3

2021年目標

生物多様性に関する年次目標は、1年間の活動単位で PDCA管理しているRC目標の中で毎年定め、進捗管理して います。2021年目標は以下の通りです。

1. 持続可能な原材料調達の推進



⇒思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all. pdf#page=79

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の推進

2018~2019年にかけて実施したグループ全生産拠点の 生物多様性評価の結果を受けて、各拠点で実施可能な生物 多様性保全活動を計画し、推進します。

3. コピー用紙削減

全社員が共通で取り組むことのできる活動として、コピー 用紙の削減活動を日本花王グループから開始しています。 2021年以降はグローバルで活動を推進し、一人当たりの印 刷枚数を前年以下にすることを目標としています。

4. グリーン購入の推進

環境負荷ができるだけ小さいものを優先して購入する「グリーン購入」を推進しています。グリーン購入法を受けて、以前から活動を推進している日本における2021年目標は、グリーン購入率100%です。

2020年の実績

実績

1. 持続可能な原材料調達の推進



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材 料調達

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

2. 地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動の 推進

新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動制限を余 儀なくされる中で可能な範囲内での活動を推進しました。

3. コピー用紙削減

一人当たりの印刷枚数は2017年比で31.4%削減となり、 目標(2017年比で10%削減)を大幅に上回りました。

4. グリーン購入の推進

日本におけるグリーン購入率は91.6%でした。

実績に対する考察

地域の生物多様性に配慮した事業活動・社会活動については、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響により活動を中止せざるを得ないケースも見られましたが、担当者の熱意により、安全に配慮しながら活動を実施できた例もあり、社内における生物多様性に対する意識の高まりを改めて実感しています。

コピー用紙削減は利用者の協力により短期間で大きな成果を上げることができました。2021年以降は活動をグローバルに拡大予定です。

グリーン購入の推進は目標の100%達成に至りませんでした。購入者の環境意識の向上だけでなく、グリーン購入法適合品を購入するしくみそのものの見直しも必要と考えています。



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材 料調達

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=79

生物多様性 304-2

具体的な取り組み

事業と生物多様性との関わりの把握

2013年に評価を完了したエコロジカル・フットプリントでは、花王の事業活動が及ぼす環境負荷は、二酸化炭素吸収地、油糧植物生育のための耕作地や牧草地、パルプや紙の生育のための森林、界面活性剤が影響を与える漁場などが大半を占めていることを確認しました。



→企業活動のエコロジカル・フットプリント www.jstage.jst.go.jp/article/ ilcaj/2011/0/2011_0_164/_pdf

さまざまな環境影響を統合して数値化できるLIME2(第2版日本版被害算定型影響評価手法)を活用して、花王の製品がさまざまな環境側面に及ぼす影響を包括的に評価してきました。花王では、主要な35製品分類について環境影響評価を実施し、環境側面のバランスについて把握し、製品開発に役立てています。今後は、LIME3(グローバルスケールのLCAを実現する環境影響評価手法)での評価を進めていきます。

事業が生物多様性に与える影響の低減

花王の事業活動が生物多様性に与えるさまざまな影響を 低減するために、以下の活動を継続的に行なっています。 いずれも花王のESG戦略における重要な活動であり、詳細 は「花王 Kirei Lifestyle Plan Progress Report 2021」に 掲載しています。

・原材料使用量の削減および持続的に調達可能な環境負荷 の少ない原材料への切り替え



→思いやりのある選択を社会のために>責任ある原材料調達 www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kaocom/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021all.pdf#page=79

・事業活動に伴うCO₂排出量の削減



→よりすこやかな地球のために>脱炭素 www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kaocom/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021all.pdf#page=88 ・水資源の使用量削減および影響の低減



→よりすこやかな地球のために>水保全 www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kaocom/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021all.pdf#page=122

・「責任ある化学物質管理」の推進 科学的根拠に基づくリスク評価とライフサイクル全体を 通じた適切な化学物質管理により、化学物質による環境 ならびに生態系への負荷を最小化するモノづくりを進め ています。



→正道を歩む>責任ある化学物質管理 www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kaocom/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021all.pdf#page=219

生物多様性の恵みを大切に 活用するための技術開発

花王は長年にわたり、アブラヤシの実などから採取できる炭素数が12~14の油脂原料を用いて工業用高級アルコールを生産し、さまざまな家庭用製品の原料として使ってきました。炭素数12~14の油脂は、世界の油脂生産量のうち

生物多様性 102-12,102-13,304-1,304-2,304-3

のわずか5%を占めるにすぎません。残り95%は炭素数16~18の油脂になります(Oil World Annual 2016)。炭素数16~18の油脂には、食料用途には適さない固体部分が含まれており、この固体部分はこれまで用途が限定されていました。そこで花王は、界面科学や界面活性剤の合成技術を適用することで、「バイオ IOS」という、品質の高い界面活性剤を生み出しています。「バイオ IOS」は、2019年より衣料用濃縮液体洗剤「アタック ZERO(ゼロ)」で実用化されています。

さらに、原料が食品用途と競合せず、環境負荷が少ない 藻類が産生する油脂をパーム油の代替とする研究も進めて います。

これまで用途が限られていた原料を界面活性剤の新たな原料にできたこと、食品用途と競合しない油を活用する可能性を広げたことは、「生物の多様性の持続可能な利用」への貢献につながるものと考えています。

また、花王は30年以上にわたって酵素などタンパク質の研究開発を行なっており、それらを菌などの微生物を使って効率的に生産する技術の開発にも取り組んできました。そのなかのひとつに、枯草菌を活用したタンパク質生産技術があります。この技術は、2020年5月に発表された、北里大学、株式会社 Epsilon Molecular Engineering (EME)との共同研究による、新型コロナウイルス中和能を持つVHH 抗体取得にも貢献しています。

今後も花王は、枯草菌によるタンパク質生産技術の強み を活かして、感染症対策をはじめとする社会課題の解決に 広く貢献していきます。



→思いやりのある選択を社会のために>暮らしを変えるイ ノベーション

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/klp-pr-2021-all.pdf#page=73

国際的な取り決めの遵守

花王は、生物多様性条約、生物多様性条約締約国会議等で決定された生物多様性に関する国際的な取り決めおよび関連する各国・地域の国内法を遵守しつつ、事業活動を進めています。

また、花王は、2014年、「原材料調達ガイドライン」の中で掲げた調達目標において日本でいち早く「森林破壊ゼロ」の支持を表明し、また、同年9月にニューヨークで開催された国連気候変動サミットで発表された「森林に関するニューヨーク宣言」にも署名しました。

「愛知目標」への花王の活動貢献内容については、下記で報告しています。今後は2021年に国際合意が見込まれているポスト2020年目標の達成に向けて活動貢献していきます。



→生物多様性保全の活動事例

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/eco_activities_03_04_02_001.pdf

地域の生態系に配慮した事業活動

グローバル共通の生物多様性評価基準に基づく活動推進

花王では、事業を展開しているグローバル各拠点において、地域の生物多様性に配慮した活動がどの程度行なわれているか評価するための生物多様性評価指標を2017年に導入し、2018年から2019年にかけて、新たに花王に併合した拠点を含むすべての生産拠点における評価を実施しました。生物多様性視点での課題を明確にでき、活動を推進することでスコアを向上することができますので、活動進捗の確認が容易になります。

本評価を導入した一番の目的は、現状を把握した上で、 明確な目的意識を持って自拠点あるいは近隣の緑地等にお ける生物多様性保全に積極的に取り組んでもらうことによ り、自拠点が恩恵を受けている地域生態系の生物多様性保 全に貢献することです。

新型コロナウイルスのような感染症の影響でいくつかの価値ある企画が中止される等、活動制限の課題もありますが、そのような状況下においても、社員の生物多様性への意識がますます高まりつつあることを実感しています。地域住民など関係する多くの皆さまにも私たちの思いが伝わり、活動の輪が大きく広がっていく「生物多様性の主流化」につなげていければと考えています。

生物多様性 304-1,304-2,304-3

「小田原事業場 第三者認証(「いきもの共生事業所®認証(通称:ABINC認証)」)を取得

小田原事業場は2020年、一般社団法人 いきもの共生事業推進協議会 (ABINC) の「いきもの共生事業所®認証」を取得しました。2015年の鹿島工場、2018年の川崎工場の認証取得に続く3例目となります。

小田原事業場は、1969年にカネボウ化粧品の工場として 稼働を開始し、2014年に花王グループ化粧品事業に関する 研究開発と生産の機能を一体化した事業場として統合・再 整備されました。小田原城の北東2.2kmに位置し、東は富 士山と丹沢山地を主な源流とする酒匂川に面して良質な水 資源に恵まれ、多くの野鳥が飛び交う自然豊かな地域にあ ります。

場内には約9,000m²の緑地があり、植栽樹木のうち90%以上が在来種です。2018年度からは、地域の生物多様性への配慮という観点で新たな保全活動を開始しました。社員の手で在来種の花や実のなる草木を植え、事業場内の神社や桜並木には野鳥が営巣するための巣箱を設置しました。また、生物の棲み処として樹木の枝あるいは石を積み上げた構造物(エコスタック)を作成して貨物門緑地エリアに配置しました。場内の樹林を間伐し、間伐材はビートルアパート(剪定した樹木の枝や雑草・落ち葉を集め堆肥化したカブトムシなどの生息場所)やテーブル、椅子などに再利用し、残材は肥料化して場内で再利用しています。

また、小田原市が取り組む酒匂川水系メダカ(小田原メダカ)の保護のための里親制度に登録しており、2018年5月に小田原市より5匹のメダカを迎えて養育、人工孵化に成功して25匹まで増加しました。2020年は、場内の建物に設け

た広いベランダに、自然に産卵できるようメダカの池を設置しました。また、川崎工場の支援のもと、ウマノスズクサ、ジャコウアゲハの保護活動などに取り組むとともに、定期的に植物、鳥類、昆虫類のモニタリングを実施しています。



小田原事業場の中央に配置した緑地帯(アークスクウェアーガーデン)





(左上) エコスタックを兼ねたベンチ (右上) メダカの池とウマノスズクサ保護エリア (左下) 落ち葉集積箱(ビートルアパート) (右下) 伐採した樹木の切り株で作ったテーブル









(左上)場内設置の巣箱で営巣するスズメ (右上)用水路の水生生物を狙うカワセミ (左下)用水路に生息するハヤ

(右下)用水路に生息する蛍のエサとなるカワニナ

生物多様性 304-1,304-2,304-3

KSA 生物多様性アセスメント実施後の保全活動

花王スペシャルティーズアメリカズ(KSA)は、アメリカ合衆国南東部のノースカロライナ州ハイポイント市に位置しています。場内には針葉樹と広葉樹の多様な樹木で構成される混交林が広がり、NGOの野生生物団体が絶滅危惧種に指定しているモリツグミなどの野鳥をはじめとするさまざまな生物が生息しています。

2019年、KSAでは、生物多様性に関するアセスメントとして、自社敷地を含む地域特性、敷地内の植生、侵入外来種、生物の生息地の現状および今後の可能性、生物モニタリング等についての検証を実施し、詳細なレポートにまとめました。

本アセスメントの結果を受けて、KSAでは生物多様性保全活動を推進しており、社員も積極的に参加しています。 2020年は新型コロナウイルス感染症の影響がありましたが、以下のような活動を実施しました。

- ・場内の落ち葉や枯れ枝等を堆肥化するためのコンポスト ヤードの設置
- ・有識者の指導の下、社員の手により実施した在来植物種 の苗木の植樹(ヴァージニア・スイートスパイア、カリカッ パ・アメリカーナ等)
- ・社員の手による小鳥の巣箱の製作および設置



場内に設置したコンポストヤード







作製した巣箱

PKI ココヤシ優良種の保護およびマングローブ植樹活動

ピリピナス花王(PKI)は1979年の創業以来、フィリピンのミンダナオ島において高級アルコール、精製グリセリン、3級アミン等の高品質のケミカル製品を生産している事業場です。これらの製品の主要原料であるココヤシの優良種を事業場内に設けた保護エリアに植樹し、現在も大切に育てています。

また、PKIでは、2010年に工場周辺の沿岸域等にマング ローブ林を復元させる「マングローブ再生プロジェクト」 を発足し、フィリピンで開催された「世界湿地デー」のイベン トにおいて、環境天然資源省や地元NGOと協働でマング ローブを植樹しました。以降、PKIでは毎年植樹を継続し てきましたが、なかなかマングローブが根付かず生存率が 低いという悩みを抱えていました。藻等の海草や海に漂っ ているプラスチック等が稚樹に引っ掛かり、葉や芽を破壊 する等、その成育を阻害することが大きな原因です。その 対策として、沿岸の定期的な清掃活動、稚樹の育成方法の 見直し(個別の種苗場で稚樹を育て、十分に根が成長したと ころで目的地に移植)、植樹時期の変更(夏季から雨季にか けての波が強く、藻の繁殖力が強い時期を避けて植樹)等を 行なってきました。これまでに蓄積した知見により、2020 年の稚樹の生存率は92%となり、当初よりも大幅に向上し ました。数種類の異なるマングローブのむかごについて、 その成長の度合いを調べるテストを行なう等、現在も研究 を続けています。

生物多様性 304-1,304-2,304-3



場内の保護エリアに植樹したココヤシ



順調に育ったマングローブの稚樹

KCSA 生物多様性方針の策定および保全活動の推進

花王コーポレーション(スペイン)(KCSA)は地球の将来の発展のため生物多様性が重要であることを認識し、「持続可能性とリスク防止の方針」を補完するものとして、2018年、生物多様性を維持、促進するために成すべきコミットメントを含む「生物多様性方針」を策定しました。

2020年、KCSAでは、新型コロナウイルス感染症により予定されていた活動計画が制約を受けつつも、「生物多様性方針」に含まれる4つのコミットメント(①保全プログラムの推進②活動推進者への適切なリソースの提供③従業員や関係者の啓発④生態ネットワークに配慮した緑地設計と維持計画)に準拠した一連の活動を実行しました。活動内容はすべての社員に情報提供し、積極的な啓発に努めています。活動の中から特にバルベラサイトで実施された活動を紹介します。



バルベラサイトで採用された新入社員が、タイム(タチジャコウソウ)やローズマリーなどの芳香性植物の植樹を行ないました。

・巣箱、昆虫ホテルの製作、ガイド付き自然散策 サイトの生物多様性について深く学んでもらう目的から、

動物および植物に精通した2人の専門家の協力により、従業員参加のサイトツアーを実施しました。ツアー途中で3種類の野鳥の巣箱(コノハズク、イエスズメ、シジュウカラ/アオガラ)を設置し、また昆虫ホテルの製作、設置を実施しました。今後、サイト内の生物多様性が高まり、生息する生物が増えることを期待しています。



参加した従業員に対し専門家が説明



巣箱の取り付け



昆虫のホテルの製作

生物多様性 102-43

他団体との連携

生物多様性保全の取り組みについて真剣に考え、具体的な活動を実践する企業の集まりである一般社団法人企業と生物多様性イニシアティブ(Japan Business Initiative for Biodiversity: JBIB)に、花王は2008年の発足当初から参加し、参加企業とともにこれまで歩んできました。テーマごとに複数のワーキンググループに分かれ、業種を超えたさまざまな企業の方たちと、企業としてどのような形で生物多様性保全へ貢献ができるのかについて毎月議論を行なっており、またJBIB「いきものDays」(2020年は新型コロナウイルス感染症の影響でオンラインイベントに変更)の開催等、多様な活動を展開しています。

ほかにも、花王は、公共財団法人都市緑化機構(花王・みんなの森づくり活動)、公共財団法人オイスカ(タイ北部 "FURUSATO"環境保全プロジェクト)、認定NPO法人アースウォッチ・ジャパン(東日本グリーン復興モニタリングプロジェクト)など、さまざまなステークホルダーとの協働により、生物多様性保全につながる活動を推進しています。



→社会貢献活動/タイ北部 "FURUSATO" 環境保全プロジェクト

www.kao.com/content/dam/sites/kao/www-kao-com/jp/ja/corporate/sustainability/pdf/sus-db-2021-all.pdf#page=103

認定 NPO法人アースウォッチ・ジャパンと協働した、生物多様性保全に寄与することを目的とした社会貢献プログラム「花王・教員フェローシップ」は2019年度の活動をもって終了いたしましたが、17年間の活動の成果をとりまとめて発信するとともに、得られた知見や参加者が制作したツールを広く活用いただくために、特設サイトを開設しました。



→特設サイト「花王・教員フェローシップ」17年間の軌跡 www.earthwatch.jp/kaofellow/